NEWS

weathernews Always WITH you!

2026 年 11 月 26 日

官民連携で日本の防災技術を海外へ
防災・危機管理に関する国際会議・展示会「SIDEX-ACDR 2026」に出展
～内閣府「日本パビリオン」にて AI 気象予測や災害リスク情報の提供を発信～

株式会社ウェザーニューズは、2026 年 10 月 28～30 日にシンガポールで開催された国際防災・危機管理展示会「SIDEX-ACDR 2026」において、内閣府防災（現：防災庁）が主催する「日本パビリオン」に出展企業の一社として参加しました。

日本パビリオンは、気候変動に伴い激甚化・頻発化する自然災害に対し、テクノロジーを活用したレジリエンスの強化と、官民連携・国際協力の推進を目的として展示されたものです。当社は、日本国内で培った予報精度 No.1（※）の気象予測や AI 活用技術、グローバル向けの気象・防災ソリューションを紹介し、アジア・太平洋地域の政府関係者や防災機関に向けて気象予測の重要性を発信しました。





◆出展の背景と目的

アジア・太平洋地域は、極端気象による自然災害のリスクが高く、甚大な被害が懸念されています。これらの被害を最小限に抑えるためには、早期警戒（Early Warning）体制の整備と、高精度かつ局地的な気象・災害予測情報の社会実装が急務となっています。

日本政府が推進する「日本の優れた防災技術の海外展開」の一環として、官民一体となってアジア地域の防災力向上に寄与すべく参画しました。

◆展示内容について

当社のブースには、アジア各国の政府防災担当者、消防・自治体関係者、現地の民間企業の危機管理責任者など多数の方にご来訪いただき、活発な意見交換が行われました。

AI 技術を活用した高精度気象・災害予測の展示では、当社が独自に運用する気象観測網や衛星データ解析技術、最先端の AI を用いた台風進路予測、局地的大雨の短時間予測技術（ナウキャスト）を紹介しました。

また、スマートフォン等で全世界のピンポイント予報を確認できる、天気アプリ「ウェザーニュース」の実演も行いました。高精細な雨雲レーダーや、現在地の 1km メッシュ予報を確認できる点が高く評価され、その場でアプリをダウンロードされる姿も見られました。

さらに、東南アジア地域で課題となっている「ヘイズ（大気汚染）」への対策や予測の可能性について多くの質問が寄せられ、越境大気汚染や突発的な気象災害に対する予測情報のニーズの高さを再確認する機会となりました。

◆今後の展望

当社はこれまでも、国連が推進する「Early Warnings for All（EW4All）」イニシアチブを支持し、世界気象機関（WMO）や東南アジア各国の気象・航空管制機関との連携を進めてまいりました。今回の出展を通じてアジア各国の防災・危機管理関係者との関係強化を踏まえ、今後は、日本発の高度な気象予測インフラと最先端AI気象モデルの社会実装を推進し、世界各地の災害レジリエンス強化と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

※　2年連続で予報精度 No.1 を獲得（2025 年 5 月発表） https://jp.weathernews.com/news/56086/